

事務事業名	真岡市交通安全協会連絡協議会支援事業				担当	市民生活部 市民生活課 交通安全係		
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり			増補版施策名			
施策名	8	交通安全の推進			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰越（開始年度 昭和56 年度～）		
予算科目	1. 一般会計	2. 総務費	1. 総務管理費	8. 交通安全対策費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	真岡市交通安全協会連絡協議会への活動支援。 真岡市交通安全協会連絡協議会は、市内9安全協会支部の連携により交通安全啓発活動を行っている。 支部名：真岡東、真岡西、山前、大内、中村、工業団地、久下田、長沼、物部の9支部。 活動内容：交通安全運動期間中の街頭指導及び啓発活動を行う。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 30年度実績 交通安全啓発活動の支援事業  31年度計画 平成30年度と同じ		⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
		名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
		ア 補助金の額	千円	27	27	27	27	27
		イ 啓発活動の回数	回	2	2	2	2	2
		ウ						
		エ						
		オ						
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 真岡市交通安全協会連絡協議会		⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
		名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
		ア 交通安全協会支部数	支部	9	9	9	9	9
		イ						
		ウ						
		エ						
		オ						
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 交通安全活動を支援する		⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
		名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
		ア 交通安全運動	回	3	3	3	3	3
		イ 街頭指導の回数	回	180	180	180	180	180
		ウ 広報箇所数	箇所	20	20	20	20	20
		エ						
		オ						
④ 結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 市民の交通安全意識の高揚と交通事故防止		⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
		名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
		ア 交通事故発生件数(暦年)	件	191	181	138	129	120
		イ 事故死者数(暦年)	人	6	2	4	7	0
		ウ 負傷者数(暦年)	人	229	222	157	144	120
		エ						
		オ						
(2) 総事業費の推移		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳						
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
		一般財源	千円	27	27	27	27	27
	事業費計(A)		千円	27	27	27	27	27
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2
		延べ業務時間	時間	40	40	40	40	40
		人件費計(B)	千円	168	166	166	167	167
トータルコスト(A)+(B)		千円	195	193	193	194	194	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	市内の交通安全協会支部の連携を図ると共に、交通道徳を高め交通事故防止に寄与することを目的に協議会が結成された。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	高齢社会の進展に伴い、高齢者が被害者となる交通事故の割合が高い状況となっていることから、平成22年2月から全県下において、すべての運転手が「子どもや高齢者に優しい3S運動」を提唱している。3S運動とは、高齢者だけでなく、子どもを含めたすべての道路利用者に優しい運転であり、子供や高齢者をいち早く発見し（SEE）、発見したら減速し（SLOW）、危険を感じたら停止する（STOP）である。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	